

平成29年度 学校運営協議会評価書

学校名	和歌山市立 宮北小 学校
作成日	平成 30年 3月23日

1 教育目標

心身ともにすこやかで、たくましく生きる子どもの育成

2 学校の自己評価についてのご意見

	地域とともにある学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標に対する意見	- 宮北地区は、登下校の見守り活動など、地区をあげて学校に協力する体制ができています。見守り活動の際、あいさつが少なくなったように感じる。あいさつは人間関係を創る基本であるので、しっかりあいさつをしてほしい。 - 学校が、地区の中の学校を意識して活動している。今後とも、このよい関係を維持して宮北地区を愛する、誇りに感じる子どもたちを育ててほしい。	「学校が楽しい」という子どもの割合が高いことはうれしいことである。全校活動はじめ、子どもたちが充実感を味わえる体験活動が進められていると感じる。 - 学校全体として落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいるようだ。子ども一人一人の“居場所”づくりに努めてほしい。	- 子どもたちにとって自然に触れる体験や活動が人間形成の上で必要である。自然が少ない街中の学校なので、自然に浸らせることは難しいと思うが、創意工夫して生活科・理科の研究・実践を続けてほしい。 - 全員が研究授業を行う等、熱心に授業力、指導力向上の取り組みがなされていると感じた。

取組の状況に対する意見	- 保護者アンケートはほとんどの項目でよい傾向となっている。特に、「体力向上や健康管理に努めている」では、91.3%と高い評価となっている。健康安全についての保護者への啓発やゲストティーチャーを招いた成果だと考える。しかし、各項目で「わからない」と評価した保護者もあり、学校の取組の発信のあり方についても考えていく必要が感じられる。 - 学校と保護者の連携がうまくいっている様子が窺えるので、一層、保護者の信頼が得られるよう努力してほしい。	- 学年によっても傾向は異なるが、子どもたちの登下校時のあいさつが少なくなったように感じる。挨拶は、豊かな心を養う第一歩であり、まず、家庭内であいさつを交わすことが大切だと思う。 - 外部の講師を招いて、各学年で様々な学習をしていることはよいことである。専門家から直接話を聞くことにより、子どもたちは一層その学習の価値を感じ取っていることだと思う。	- 家庭環境等を含め子どもたちの指導のたいへんさは、ますます増えていると思う。児童一人一人の特性を見抜き、個に応じた指導の研究と実践を続けてほしい。 - 聞く、話すは学習の基本であり、学習を宇深める要因ともなる。6年間でしっかり身につけさせてほしい。 - 生活科・理科を核とした授業研究に学校全体で取り組んでいることや先生方が日々の授業や授業研究に取り組む姿勢は、子どもたちの学習意欲に繋がっていると思う。
検証結果に対する意見	- 学校が行っている保護者アンケートは、学校を開く一つの方法である。アンケートを毎年実施し、学校はより一層保護者の意見に耳を傾けてほしい。 - より実態がわかるアンケートにしていたのでよかったと思うが、評価が低かった項目について、来年度以降しっかりと対策を立て、改善に向けて取り組んでほしい。また、評価項目については、毎年見直し、より保護者の考えが反映できるアンケートにしてほしい。	- スマートフォンやゲーム機等でネットと繋がる子どもが増え、有用性とともトラブルに巻き込まれる危険性も高くなっている。授業でも指導していると聞くが、より一層計画的に指導してほしい。また、保護者への啓発にも努めてほしい。 - スマートフォンやゲーム機の影響が家庭で読書する子どもが少なくなってきた。読書によって得られることも多いので、子どもへの指導とともに保護者への啓発も必要であると考えます。	子どもや保護者アンケートの回答は肯定的な意見が多いが、学校の教育活動を否定的に捉えている意見もある。また、学校の取組が見えにくいのも実情である。学校としては、その意見も真摯に受け止め、内容を分析して改善策を講じてほしい。
改善方法に対する意見	小学校は規模も小さく、お互いに気心も知れているが、中学校は大規模校で、今までとは状況が大きく異なる。保育所と小学校との連携や地区との連携は図れているが、小中の連携はどうか。英語教育も導入されると聞くので、様々な方法で連携を進めることがますます必要になってくるであろう。その在り方について探ってほしい。	「読み聞かせボランティア」などを招いた取組はよかったが、読書する習慣を家庭にも広げる取組が必要だと感じる。育誠会をはじめとする保護者と学校が一つの方向に向かって、様々な工夫を凝らして取り組むことにより効果は上がると考える。	- 全国学力・学習状況調査の結果がよい傾向であったことはよかったが、学年によって傾向も異なるものと思う。より一層取組を進め、子どもたちの学力向上に努めてほしい。 - 子どもたちの学力の二極化が著しくなっていると聞く。それに対してどのような指導をしているのか、また、していくのか、中・長期的な視野に立って実践する必要があると考える。学力向上は学校の使命である。わかる喜び、できる楽しさをどの子にも味わわせてほしい。

3 その他のご意見

スマホ等の使用について、PTAが中心になり、使う時間帯や使い方のルールを提案し、保護者に啓発してはどうだろう。保護者のスマホの利用についての意識を高めていく必要がある。
--